

## 播磨の演劇人が総力を挙げて挑む 「二十世紀少年少女読本」9月に上演



4月29日、劇団プロデュース・Fアトリエで鄭さんと上瀧さん、出演者、スタッフの初顔合わせがありました

姫路を拠点に活動する劇団が集まり1998年に発足した「はりま劇団協議会」の第3回合同公演「二十世紀少年少女読本」が9月22日(土)・23日(祝)にキャスパホールで上演されます。姫路市文化国際交流財団設立30年特別企画として開催するもので、2001年の第1回、2008年の第2回に引き続き姫路市出身の鄭義信チョン ウィジンさんが脚本と演出を担当します。

一人の女性の過去と現在を通して夢や希望、憧れや諦念を抱えて生きる人々を描いたこの作品は、第1回合同公演が初演で、その後「二十世紀少年少女唱歌集」として韓国や国内の各地で上演が続いています。劇団プロデュース・Fの小林みね子さんは「この作品は姫路が『本家』。わたしたちにとって宝物の作品なので、もう一度できると考えただけで感極まってくる」と話し、劇団天狼星計画主宰で協議会代表の松

岡一三さんは「かっいいお芝居になれば。この公演をきっかけに姫路の演劇をもっと盛り上げたい」、鄭さんは「自分で演出するのは3回目。17年ぶりということでキャストもがらりと変わるし、新しい境地で挑みたい」と抱負を語ります。

協議会加盟劇団員を中心とした20名が出演するほか、大阪の「南河内万歳一座」から荒谷清水さん、「空晴」から上瀧昇一郎さんをゲストに迎えます。荒谷さんは第2回合同公演「映像都市2008」に参加しており、今回も出演を快諾。上瀧さんは県立ピッコロ劇団が昨年上演した鄭さん作・演出の「歌うシャイロック」に出演しており「また鄭さんと一緒にできるならと即決しました。姫路の皆さんはとても温かい。ゲストの名に恥じぬよう、精一杯がんばります」と話しています。

チケットは6月に発売開始。また、22日(金)からは鄭さんの初監督作品、映画「焼肉ドラゴン」がアースシネマズ姫路ほか全国約160館で公開されます。数々の演劇賞を総なめにした戯曲が原作で、真木よう子、井上真央、大泉洋のほか上瀧さんも出演しています。「『二十世紀一』は『焼肉ドラゴン』の原型ともいえる作品」と鄭さん。スクリーンで、舞台上、ぜひ鄭さんの世界を味わってください。

※9月9日(日)には鄭さんが講師を務める演劇ワークショップも開催。チケット発売日等の詳細は巻末の「事業あんない」をご覧ください。

☎キャスパホール ☎079-284-5806



## 県立歴史博物館で 企画展「線路はつづく」開催中

兵庫県政150周年記念事業の一環として、県立歴史博物館で特別企画展「線路はつづくーレールでたどる兵庫五国の鉄道史ー」が開かれています。

鉄道ファンに人気のSLや特急列車、〇〇系と呼ばれる車両などに比べると地味な存在に見えますが、長い歴史を誇る鉄道輸送を支えてきたのが他ならぬこのレール。多くが輸入レールに頼っていた明治初期から、レールの国産化が進むようになった明治40年代、さらには全局的に鉄道網の敷設が進んだ大正・昭和まで、兵庫県の鉄道の歴史を「レールを切り口」に振り返ってみようというのが今回の催しの狙いです。

展示構成は、第1部が〈走り始めた兵庫の鉄道ー英国・鑄鉄・双頭レール〉で、擦り減ったら裏返して再利用ができるイギリス製の双頭レールなどを展示。第2部は〈輸入レールの時代〉で、明治30年代に敷設された阪鶴鉄道の当時のレールや、「山陽鉄道兵庫姫路間汽車運転時刻表」などを紹介。第3部が〈鉄道網の形成と国産レールの台頭〉で、「紀元

2603年」(昭和18年)の銘が入った八幡製鉄所製のレールや、昭和39年の姫路モノレールのレールほかを展示。第4部が「表示板の魅力」で、今のようにLED表示器になる前のどこか懐かしい看板式の表示板や行先標を多数展示。このコーナーでは写真撮影もOKになっています。

レールを切り口にしながらも、古い時代の時刻表などの実物資料や戦前の姫路駅待合室などの写真資料も数多く展示しており、見所には欠きませんが、注目したいのが役目を終えた古レールの再利用の事例の紹介。駅ホームの上家や跨線橋の支柱などに再利用されており、「レールに限らず古い石碑や道標など、身近なところに歴史を語る材料は転がっています。今回の展示会が、身近なものを通して歴史を考えるきっかけになれば」と、担当学芸員の鈴木敬二さんは話しています。

※詳細は8ページをご覧ください。

☎県立歴史博物館 ☎079-288-9011



姫路モノレールのレール  
姫路市蔵(手柄山交流ステーション保管)



手柄山付近に行く姫路モノレール  
兵庫県立歴史博物館蔵(高橋秀吉コレクション)